

第69番 観音寺

●香川県観音寺市八幡町1-2-7
☎0875-25-3871
●宿坊/なし

第70番 本山寺

●香川県三豊市豊中町本山甲1445
☎0875-62-2007
●宿坊/なし



沿線の見どころ



銭形砂絵

瀬戸内海国立公園内、琴弾公園の有明浜に描かれた巨大な砂絵。東西122m、南北90mもの大きさながら、江戸時代に領民が藩主を迎えるために一夜で造ったといわれている。「銭形を見た人は健康で長生きし、お金の苦労しない」という言い伝えがあり、琴弾山の山頂から全景を見ることが出来る。

☞香川県観音寺市有明町14
☎0875-23-3933
(観音寺市商工観光課)



境内の見どころ



釈迦涅槃像

お釈迦様が沙羅双樹の下で頭を北に向けて身を横たえている像で、臨終の姿を彫ったもの。同じ場面を描いた絵(涅槃図)は様々な寺院で見られるが、彫刻されたものは日本では数少ない。藤原時代の作とされ、国指定の重要文化財。通常は非公開だが、年に一度、2月15日の涅槃会の時のみ公開される。



境内の見どころ



十王堂と閻魔会

十王堂には閻魔大王をはじめとする地獄の審判「十王」が祀られている。閻魔会は観音寺の行事の一つで、1月16日と8月16日に十王堂で行われる先祖供養の法要。いつもはお遍路さんが目立つ境内だが、この日は近隣の人たちで賑わう。地獄の様子を描いた地獄絵図の軸画も公開され、供養の大切さを教えてくれる。



琴弾山を背景に、朱塗りの建物が映える

第69番

七宝山 観音寺

しっぽうざん かのんじ

朱塗りの堂が映える琴弾山麓の寺

歴史・全体像

大同2年(807)、弘法大師が琴弾八幡宮神宮寺(のちの神恵院)の第七世住職を務めていた時、寺の起源となった宇佐八幡大神の神舟は神功皇后ゆかりのものであり、観音の化身であると感得した。そこで、琴弾山の中腹に寺を建立、聖観世音菩薩像を彫って本尊とし、寺号を観音寺と定めた。寺の様式は奈良の興福寺に倣い、中金堂、東金堂、西金堂を備えた。中金堂を本堂として聖観世音菩薩を安置。西金堂には薬師如来像と十二将神像を、東金堂には弥勒菩薩を安置していた。

明治時代の神仏分離令により、観音寺の境内に神恵院が移され、現在の形となった。

境内

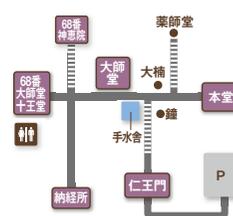
神恵院と敷地を同じくする境内は、背後に琴弾山がそびえ、立体感と奥行きがある。仁王門から階段を上るとすぐ右側に見えるのは、本堂である中金堂。室町時代の部材を残し、江戸中期に建立されたもので、国の重要文化財に指定されている。そばには樹齢800年を超える大楠が枝を広げ、歴史の息遣いを感じさせる。

本堂の周囲には西国三十三所の三十三観音がずらりと並び、参拝者と地域の人々の平穏を見守っている。納経所は平成14年(2002)年に改修。神恵院大師堂の近くにあり、二ヶ寺分の納経を行っている。



本堂は雅な室町時代の面影をたたえる

御詠歌/観音の大悲の力強ければ
重き罪をも引き上げてたべ
本尊/聖観世音菩薩
真言/おん ありりきゃ そわか
宗派/真言宗大覚寺派
開基/日証上人



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

2017年3月作成

歩き遍路のための
「四国遍路」巡礼マップ

第69番 観音寺
第70番 本山寺



「四国遍路」巡礼マップ

第69番 観音寺 ▶ 第70番 本山寺

4.5km ※赤い点線は遍路道の一例です



- 《凡例》
- 弘法大師ゆかりの寺院
 - ゆかりの神社
 - ゆかりの場所
 - ファミリーレストラン
 - コンビニエンスストア
 - 宿泊施設
 - 遍路小屋
 - 休息所
 - 店舗・スーパー
 - コインランドリー
 - 公共トイレ
 - 医療機関
 - 道の駅
 - 温泉
 - 学校

